

荒川に生息する生き物

荒川の上流・中流・下流の生息環境の違いで魚や鳥などの生き物が変わります。



荒川に飛来するハクチョウ



オオヨシキリ



ナマズ

荒川に生息する魚

山地を流れる上流には、きれいで、冷たい水が好きな生き物たちが生活しています。代表的な魚は、イワナやヤマメです。川の宝石と言われるカワセミの1種、ヤマセミも空中から上流のきれいな水に飛び込んで見事に魚を捕らえます。

中流の砂や小石の川原では、コアジサシが卵を産みます。代表的な魚は、ウグイやオイカワで、中流の浅瀬に集団で卵を産みます。

流れがさらに緩やかになる下流では、純白の姿が清楚なコサギや水に潜って魚を捕まえるのが得意なカワウもよく見られます。水際のヨシ原では、オオヨシキリやカイツブリが子育てをしています。冬になると荒川の深谷市や川島町に渡来するコハクチョウは、シベリア北部の北極圏が生まれ故郷です。代表的な魚は、コイやギンブナです。ナマズものんびりと泳いでいます。

▶ 上流



ニッコウイワナ

ヤマセミ



ニッコウイワナ

川の最上流にすみ、川虫や川面に落ちた昆虫を食べます。荒川産は体側の斑紋が赤みを帯びる特徴があります。

ヤマセミ

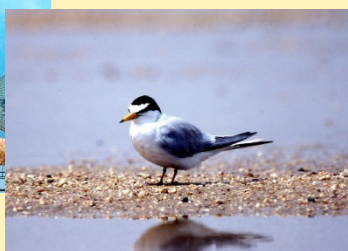
主に山間の渓流や湖沼に住んでいます。水中にダイビングして魚を捕らえます。同じ仲間のカワセミより遙かに大きく、ハトくらいの大きさです。

▶ 中流



オイカワ

コアシサシ



オイカワ

泳ぎに適したナイフのようにスマートな体形をしています。浅瀬にすみ、川虫や石に付いた藻などを食べます。

コアシサシ

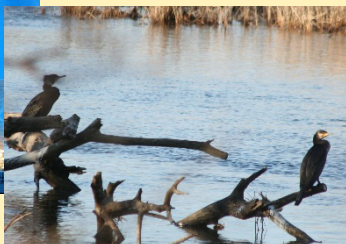
砂礫河原で繁殖する夏鳥ですが、繁殖環境は年々減少しています。上空からダイビングして魚を捕ります。

▶ 下流



ギンブナ

カワウ



ギンブナ

ずんぐりとした体形で、岸辺のヨシ帯など流れの緩やかな所にすみます。雑食性で川虫や水草などを食べます。

カワウ

魚食性の鳥で集団で繁殖する習性を持っています。荒川沿いには何ヶ所かの罫（ねぐら）が知られています。

コ ラ ム

さいたま水族館 ～荒川に棲む70種類の生き物を展示～

埼玉県では、86種類の魚が採捕されています。これらのうち、展示可能な約70種類を中心に展示し、その生態や特徴を解説しています。館内は、荒川の全長173kmを、上流から河口域まで下るようなスタイルで展示されています。天然記念物としては、国指定のミヤコタナゴ、県の魚ムサシミヨ、食虫植物ムジナモを増殖して展示しています。

国内種以外にも、世界の代表的な熱帯魚も展示しています。

また、庭池では、1mを超えるようなチョウザメや、コイ、ニシキゴイなどガラス越しに見る事ができます。



庭池



地図：国土地理院 平28情復 第325号

アクセス

交通：東武伊勢崎線「羽生駅」または「加須駅」下車、
タクシー利用で約15分
住所：埼玉県羽生市三田ヶ谷751-1

